



激励金を受けた遠藤さん(左から2人目)、渡部さん(右から3人目)、小坂橋さん(右から2人目)

自衛隊入隊予定者を激励

町自衛隊協力会激励会

町内の自衛隊入隊予定者激励会は3月2日、町役場で開かれました。町自衛隊協力会会長の前後公町長が、令和5年度入隊予定者の遠藤悠大さん(沼ノ倉=郡商高卒)、渡部光郁さん(千代田=猪高卒)、小坂橋橋杜さん(中の沢=会工高卒)に激励金を手渡しました。前後町長は「古里を愛する心を忘れず、信頼される自衛官として活躍されることを期待しています」と話し、3人を激励。自衛隊会津若松出張所鈴木祐介所長が祝辞を述べました。

震災犠牲者の冥福を祈る

東日本大震災 12年・13回忌慰霊法要

町仏教会は3月11日、亀ヶ城公園内の鐘つき堂で東日本大震災12年13回忌慰霊法要を執り行い、東日本大震災の犠牲者を弔うとともに震災からの復興を祈りました。

法要には、町内各寺の住職や檀家の代表者ら約20人が参列。細川正善会長があいさつし、僧侶らによる読経の後、地震が発生した午後2時46分に合わせ参列者が犠牲者の冥福と震災からの復興を祈って鐘を打ちました。



犠牲者の冥福を祈って鐘を突く町仏教会の会員ら



前後町長に活動を報告する生徒ら

猪中生が活動を報告

猪苗代中学校活動報告会

猪苗代中学校活動報告会は3月7日、町役場で開かれ、生徒らが前後公町長に活動報告を行いました。

スキー部は第60回全国中学校スキー大会に出場。クロスカントリー男子リレー競技で第7位、女子リレー競技で第9位に入賞しました。横澤秀哉さんは、個人クラシカル競技で第4位に入賞。全国大会での男子クロスカントリー個人入賞は、25年ぶりの快挙となりました。横澤さんは「1年生から毎日練習を積み上げてきた結果なのでうれしいです」と話しました。

また、猪苗代中は、3月5日に開催されたふくしま復興とSDGsを考える県民シンポジウム2023で、県が今年度創設した持続可能な開発目標(SDGs)の推進に向けた取り組みを顕彰する「ふくしまSDGsアワード」を受賞。シンポジウムでは、生徒会長の小鮎侏人さんと総合文化部長の星創太さんが、猪苗代湖の水質改善に向けた水草の除去作業などについて発表しました。小鮎さんは「全員でSDGsの活動をしてきた結果、ふくしまSDGsアワードを受賞できたと思うので、全員が喜んでいと思います」と話しました。



活動の報告に訪れた猪苗代中の生徒ら



ウェブ会議システムで対応を協議する鈴木善弘総務課長

万が一の災害に備えて訓練

磐梯山火山防災連絡会情報受伝達訓練

猪苗代、磐梯、北塩原の3町村でつくる磐梯山火山防災連絡会の情報受伝達訓練は2月27日、各町村役場で行われました。

訓練では、磐梯山で火山性地震が増加し、火山性微動が確認されたため、噴火警戒レベルが2に引き上げられることを想定して実施されました。連絡を受けた各町村の防災担当課長は、ウェブ会議システムを使って「磐梯山の火山活動が活発化した場合の避難計画」に基づく防災対応について確認しました。

吾妻小の2年生が優勝報告

みんなで跳ぼう！なわとびコンテスト

県教育委員会主催の令和4年度みんなで跳ぼう！なわとびコンテスト9人以下長なわとびの部で優勝した吾妻小2年の児童8人は2月28日、町役場を訪れ、宇南山忠明教育長に優勝報告を行いました。2年生は昨年のコンテストでも優勝しており、2年連続の優勝。参加した児童は「みんなで話し合って、休み時間にたくさん練習しました」、「掛け声をかけて、みんなで心をつなきました」などと話してくれました。



優勝報告に訪れた吾妻小2年の児童ら



緑小4年生の国語の授業で児童の補助を行う学生(右)

大学生が小学校で学習支援活動

東京学芸大学の学生がボランティア

東京学芸大学の学生4人は2月27日から3月3日まで、翁島小学校と緑小学校で教育支援ボランティア活動に取り組みました。町と同大学は、地域連携協定の一環として、平成28年度から「学生による教育支援ボランティア事業」を実施しています。4人の学生は、学習のサポートや行事の手伝い、休み時間には一緒に遊ぶなどして児童と触れ合い、熱心に活動に取り組みました。



ボランティア事業に参加した学生ら



同大学の先生による図工の授業(緑小)



町地域おこし協力隊の長友さん(右)さんが大会報告に同席



前後町長に大会報告を行う安積高3年の金子さん(左)と草野さん(右)

観光甲子園2022

全国の高校生がSDGs思考で観光事業計画を競う「観光甲子園2022」SDGs修学旅行部門において決勝まで進んだ安積高校チームに所属する本町出身の2人は3月7日、町役場を訪れ、前後公町長に大会報告を行いました。

ともに当時2年生だった草野日向子さん(左)と金子優海さんは、探求学習の一環で先生に勧められてコンテストに参加。SDGs修学旅行部門には全国42都道府県、118校、457チームが出場しました。

同チームは、水質汚染の要因とされている水生生物「ヒシ」の収穫や実食体験、手作業での田植えなどが体験できる就学旅行プランを作成。町地域おこし協力隊の長友広海さんは、猪苗代町での環境に配慮した体験活動を紹介します。プランの作成に協力しました。

草野さんは「今回の企画を考えたり、話を聞く経験を生かして大学でも頑張りたい」、金子さんは「活動を通して大人の人と話す活動ができたので将来に生かしたい」と話しました。



100万人達成を祝う竹下さん(中央)や森山さん家族(左)ら

年間来場者 100万人を達成

記念イベントで竹下景子さんが一日駅長

道の駅猪苗代では3月11日、年間の来場者が初めて100万人を超えました。同日に行われた記念イベントでは、俳優の竹下景子さんが一日駅長を務め、関係者らとくす玉を割り達成を祝いました。年間来場者100万人目となった横浜市の森山保治さん家族には、町からホテルの宿泊券が贈られました。森山さんは「賑やかで華やかな道の駅。猪苗代町は自然が豊かで人が温かい」と話しました。

霜の被害から農産物を守る

町防霜対策本部看板掲額式

農産物を霜の被害から守るため、関係機関と連携して農家への情報提供や対策技術の指導などを行う町防霜対策本部は3月22日、町農林課内に設置され、前後公町長と会津よつば農業協同組合齋藤勝則あいづ東部営農経済センター長が役場正面玄関に看板を掲げました。前後町長は「霜による被害を未然に防止するため、関係機関の皆さんの適切な指導をお願いします」とあいさつを述べました。対策本部の設置期間は6月2日までです。



対策本部の看板を掲げる前後町長と齋藤センター長(右)

地域おこし協力隊通信



私たちが地域を元気に！
地域おこし協力隊

加藤 律樹 さん

主な活動内容：観光振興、移住定住促進

こんにちは。地域おこし協力隊の加藤律樹です。令和4年5月に就任して約1年が経とうとしています。私個人の活動として、昨年7月に地域限定旅行業の「Katip」を開業しました。猪苗代町を拠点にツアー造成や着地型旅行商品開発を目指し、日々励んでいます。Katipによる初のツアーでは猪苗代町のシンボルとも言える「かめ丸」のサンセットクルーズツアーを実施しました。かめ丸は、船内を大回りし、カメ丸レストランクルーズとして生まれ変わりました。今後も観光船等を活用した旅行商品を作成し、猪苗代町を盛り上げていこうと思います。

今年の2月には、Katipが福島県認定観光ブランド「エクストリームふくしま」に認定されました。エクストリームふくしまとは、県内で提供される「普段体験できない、非日常的な体験ができる場所」をコンセプトにしたコンテンツです。開業1年目で認定していただき、大変嬉しい反面、少々プレッシャーもあります。名前に負けず今後もおもしろい活動をしていきたいと思っています。

このように、私の強みである旅行業の資格を活用して、観光誘致を促し、交流人口を増やしていくことで、町から託されている移住定住のさらなる促進に努めています。皆様、応援のほどよろしくお願ひします。

課題解決のための取組を発表

町地域おこし協力隊活動報告会

様々な分野に挑戦している町地域おこし協力隊の令和4年度活動報告会は3月23日、学びいなかで開かれ、約40人が会場を訪れました。

報告会では、前後公町長が「隊員が地域課題解決のため、精力的に活動に取り組みました。隊員をはじめ、任期満了後も猪苗代町に残り、就職や起業をしているOB・OG隊員に対しても、あたたかく見守ってください」とあいさつを述べました。

続いて、各隊員による報告が行われ、長友海夢さん、橋本真由さん、小林澄子さん、佐川竜二さん、畠中惇さん、加藤律樹さんの6人がこれまでの活動や今後取り組んでいきたいことなどを発表。このうち、地域活性化支援業務を担当する長友さんは、企画財務課窓口でのマイナポイント申請補助業務のほか、「ヒシ」の実を使ったお茶の商品化、ヒシを活用した体験コンテンツなどを紹介。今後はヒシ茶の量産や新たな産業の創出に取り組んでいくことなどを発表しました。最後に、1月から隊員になった先崎友美さんが自己紹介し、福島大学との連携事業など担当する業務を発表しました。



活動を報告する長友さん



町地域おこし協力隊の(手前左から)先崎さん、橋本さん、小林さん、(奥同)畠中さん、長友さん、加藤さん、佐川さん